



Special feature.3 ▶ a Case Study |

国際興業株式会社

メインフレームを完全撤廃 System i5によるオープン化で 業務効率大幅アップを実現

運輸交通、観光レジャー、流通商事、不動産開発など多角的に事業展開を行う国際興業。2008年5月、従来のメインフレームを完全撤廃し、IBM System i5によるオープンシステムを本格稼働した。効果は絶大で、コスト削減効果などと共に業務処理速度が大幅に向上し、従来は15分から20分かかっていた処理時間が15秒から20秒へと劇的に短縮された。現代はICカードを使った乗車券やインターネット活用による顧客とのダイレクトなやりとりなど、システム側もフレキシブルな変更が必要となる。オープンシステム導入でそのための下地作りができあがったという。

●企業データ
国際興業株式会社
 設立：1940年
 資本金：1億円
 従業員数：2,400人
 本社：東京都中央区八重洲2-10-3
<http://www.kokusaikogyo.co.jp/>



小山 秀樹氏
 国際興業株式会社
 総務部次長 兼
 情報システム課長

新たな仕組みが誕生したときには フレキシブルな対応が必要

環境変化に対応できる 情報システムが必然に

バスやハイヤーなどの交通事業、ホテル経営やゴルフ場経営といった観光・レジャー事業、輸入車やゴルフ用品の販売や商材調達といった流通・商事事業、不動産の開発・販売、賃貸を行っている不動産事業——1社でこれら全てを事業としているのが国際興業だ。多角的な事業展開が特徴の国際興業だが、総務部次長兼情報システム課長の小山秀樹氏は、「我々が手がけているのは総合サービス産業であり、市場としては成熟しており、ここ数年で急激な市場拡大をのぞめる分野ではありません。しかし、社会的使命が非常に高く、お客さまに安定性と、信頼性の高いサービスを絶えず提供していくことが企業としての使命であると考えています」と話す。

社会的使命を果たすためには、安定したサービスの提供だけでなく、社会環境や技術の変化にも積極的に対応していかなければならない。例えば、2007年3月に首都圏でスタートしたICカードを活用した乗車券サービス「PASMO（パスモ）」は、スタート時点でバス、鉄道など1001の事業者が参加している。一つのICカードで異なる事業者の交通を利用できるのがセールスポイントで、国際興

業もスタート時点からこのサービスに参加している。「パスモのような新たな仕組みが誕生した際に迅速に対応するためには、情報システム側もフレキシブルに変化に対応できる体制であることが必要です。」(小山次長)

また、現在ではインターネットの普及により事業内容に思わぬ変化が起こる可能性もある。例えば、「中古バスドットコム」は中古バスを販売するサイトである。インターネットによって、新たな需要が顕在化し、ビジネスになった好例といえる。

小山次長は情報システム部門が抱える課題を次のように説明する。「こうした変化にスピード感を持ってフレキシブルに対応する情報システム部門が肝要。情報システム部門といえは従来は受信型つまり、「待ち」の姿勢でいることが多かったのですが、これからは情報システム課が積極的に発信・提案し、現場からもどんどん要望を吸い上げる体制でなければなりません。そこでまず手がけたのが、カードの顧客情報、ハイヤーの運送収入管理など各業務を管理するために活用していたメインフレームの撤廃だったのです」

リース切れ契機に システム刷新を決意

同社がシステム刷新の検討を始めた

のは2005年。2006年3月にはその時点で利用していた、一般的に言えば販売管理、給与計算などを行うために利用していたメインフレームのリース期間が切れることが発端となった。

システム刷新を担当した現場担当者の総務部情報システム課・青葉孝次主査は、当時を次のように振り返る。「システム刷新にあたって選択肢は3つありました。それまで使っていたメインフレームの後継機を導入する。パソコンサーバーに入れ替える。そしてJBCから提案されたIBMのSystem i5を導入するか。複数のシステムインテグレーターから受けた提案を元に、社内協議が始まったのです」

三つの選択肢の選定基準としてまずあがったのが、「このままメインフレームを使い続けるべきなのか？」という議論である。

最初に紹介したように、パスモのような社会変化、インターネットによる各事業のサービス内容の変化が起こっていることを考えると、「変化に対応しにくいメインフレームをこのまま使いつつてよいのか」という声が社内からあがったのは当然のことといえる。「私が懸念したのは、メインフレームは属人性が高いシステムであるという点です。情報システム課のスタッフのうち、メインフレームを担当できるス



青葉 孝次氏
国際興業株式会社
総務部
情報システム課 主査

変化に気づかないことこそ システム移行がスムーズにできた証

こうして新システムに移行した結果起こった大きな変化は、①JBCCのソフト「NewWorkFriend」導入による他システムとの連携、②電子帳票の利用、③CSVファイルへのデータ吐き出しが可能という3点。
実はメインフレーム利用時は、「各事業から上がっている収入を把握する仕組みがない」という問題を解決するために、メインフレームのデータをLotus Notesに送り込んでいた。メイ

「見た目をほとんど変えていないため、エンドユーザーからは『どこが変わったのかわからない』という声もありました。変化に気づかないことこそ、システム移行がスムーズにできた証といえます」（青葉主査）

情報システム課の 仕事内容も激変

作成したシナリオに基づきエンドユーザーと共に実施した最終テストで、以前と変わらないアウトプットが出力した時には情報システム課スタッフ、JBCC側のスタッフも安堵の声があがったそうだ。
しかも、処理速度は大幅に向上し、SLCCで実施したテスト通り、アウトプットが出てくるまでの時間は15秒、20秒。
「間違ったデータを送り込むことができなかったため、間にサーバーを立ててデータを送り込む仕組みを作っていたが、新システムはその必要がない。サーバーを必要としない分、コスト削減、開発工数削減といった効果が現れている。」

「他部署に比べ情報システム課のスタッフは長年固定されていて、他の部署への異動が少なかった。しかし、これからはもっと人材交流を図り、現場の声を吸い上げると共に情報システム課員が持つスキルを拡充することが必

「顧客の志向や経営ニーズに則し、情報システムを大胆に再構築することが必要な時代となっています。今回のメインフレーム撤廃はその第一歩であり、大成功といっていいと思います。これに終わることなく、これからさらなる改革を実現していくのが情報システム課の今後の課題です」（小山次長）

メインフレームからSystem i5へ

新システムの機能面のメリット

- ①処理スピードの速さ
- ②他システムとの連携が容易
- ③テスト環境の作成が容易に

新システムによって起こった変化

- ①JBCCのソフト「NewWorkFriend」導入による他システムとの連携
- ②電子帳票の利用
- ③CSVファイルへのデータ吐き出しが可能

要です」

実際にこれまではIT化されていなかった運輸事業に所属する整備工場にパソコンを導入したところ、これまで手書きで行っていた業務処理をパソコンで処理することが可能となった。事業が幅広いだけに、情報システム課も把握できない現場業務も多く、「まだまだ改善の余地がある」と実感したそうだ。



町田 弘行氏
国際興業株式会社
総務部
情報システム課 係長

エンドユーザーの協力があったからこそ 最終的な確認ができる

「以前、ERP導入を検討したこともありますが、業種が多いためアプリケーションコストがかかりすぎて導入が難しいという結論に至りました」（小山次長）
移行対象となったのは12システム

多彩な事業が特徴である国際興業の場合、各業務用アプリケーションを統一することは難しい。
「以前、ERP導入を検討したこともありますが、業種が多いためアプリケーションコストがかかりすぎて導入が難しいという結論に至りました」（小山次長）

「顧客の志向や経営ニーズに則し、情報システムを大胆に再構築することが必要な時代となっています。今回のメインフレーム撤廃はその第一歩であり、大成功といっていいと思います。これに終わることなく、これからさらなる改革を実現していくのが情報システム課の今後の課題です」（小山次長）

「処理スピード向上は、JBCCが開催したセミナーでアピールされていた点でしたが、格段に速くなると言われたのですが、やはり実プログラムでテストしなければわからない。JBCCの検証施設「SLCC（ソリューションセンター）」にプログラムの中で最も重いものを持ち込み、テストしました。すると、これまで20分かかっていた処理が15秒から20秒ですんだのです」（町田係長）
この他の機能的なメリットは、システム移行作業中に実感することとなった。

「処理スピード向上は、JBCCが開催したセミナーでアピールされていた点でしたが、格段に速くなると言われたのですが、やはり実プログラムでテストしなければわからない。JBCCの検証施設「SLCC（ソリューションセンター）」にプログラムの中で最も重いものを持ち込み、テストしました。すると、これまで20分かかっていた処理が15秒から20秒ですんだのです」（町田係長）

「顧客の志向や経営ニーズに則し、情報システムを大胆に再構築することが必要な時代となっています。今回のメインフレーム撤廃はその第一歩であり、大成功といっていいと思います。これに終わることなく、これからさらなる改革を実現していくのが情報システム課の今後の課題です」（小山次長）

「処理スピード向上は、JBCCが開催したセミナーでアピールされていた点でしたが、格段に速くなると言われたのですが、やはり実プログラムでテストしなければわからない。JBCCの検証施設「SLCC（ソリューションセンター）」にプログラムの中で最も重いものを持ち込み、テストしました。すると、これまで20分かかっていた処理が15秒から20秒ですんだのです」（町田係長）

「顧客の志向や経営ニーズに則し、情報システムを大胆に再構築することが必要な時代となっています。今回のメインフレーム撤廃はその第一歩であり、大成功といっていいと思います。これに終わることなく、これからさらなる改革を実現していくのが情報システム課の今後の課題です」（小山次長）

「顧客の志向や経営ニーズに則し、情報システムを大胆に再構築することが必要な時代となっています。今回のメインフレーム撤廃はその第一歩であり、大成功といっていいと思います。これに終わることなく、これからさらなる改革を実現していくのが情報システム課の今後の課題です」（小山次長）

処理速度が 20分から15秒に

「顧客の志向や経営ニーズに則し、情報システムを大胆に再構築することが必要な時代となっています。今回のメインフレーム撤廃はその第一歩であり、大成功といっていいと思います。これに終わることなく、これからさらなる改革を実現していくのが情報システム課の今後の課題です」（小山次長）

「顧客の志向や経営ニーズに則し、情報システムを大胆に再構築することが必要な時代となっています。今回のメインフレーム撤廃はその第一歩であり、大成功といっていいと思います。これに終わることなく、これからさらなる改革を実現していくのが情報システム課の今後の課題です」（小山次長）

「顧客の志向や経営ニーズに則し、情報システムを大胆に再構築することが必要な時代となっています。今回のメインフレーム撤廃はその第一歩であり、大成功といっていいと思います。これに終わることなく、これからさらなる改革を実現していくのが情報システム課の今後の課題です」（小山次長）